

長引く景気低迷で地元のスポーツチームはいずれも収入源に悩んでいる。商売を通じて何とか支えられないか——。そんな思いを持った会社がちょっとした工夫を凝らして支援に乗り出している。

## 釜たまうどん代金の一部をカマタマーレに 廃棄物再資源化利益でエイティエイツ支え

# 不況収入源悩む 地元チーム応援



サッカーJFLへの昇格が決まったカマタマーレ讃岐を応援しようと、讃岐うどん店「たも屋」は、釜たまうどん(小300円など)1杯当たり100円を寄付するキャンペーンを始めた。来年1月15日まで。

釜たまうどんを頼んだ客は、レジの前に置かれた募金箱に、料金のうち100円を入れる仕組み。高松市朝日新町の本店、同市南新町の女道場店、同市林町の林店、同市勅使町の勅使店の4店舗で行われている。

店はもうけが100円少なくなるが、黒川保社長は「JFLに昇格すれば遠征資金がもっと必要になる。少しでも貢献できれば。お客さんと一緒にカマタマーレを応援したい」。



女子バレーボールの四国エイティエイ

ツクインを応援するのは、三豊市のリサイクル会社「協同回収」。チームを支援する企業や商店街に呼びかけて電

化製品などの廃棄物を回収し、再資源化。売却した利益の一部をチームに寄付している。おおむね年2〜4回活動しているという。

同社によると、廃棄物の回収量1トあたり1万円の寄付ができ、6月に活動を開始し

てからこれまでに約20万円を寄付したという。同社の担当者は「地域のスポーツを支援したい一心で始めた。もっと応援の輪を広げたい。当面の目標は寄付額を現在の5倍に伸ばすこと」と話している。